

知床五湖利用者の利用調整地区に対する認識

Recognition of Regulated Utilization Area System by Tourists of Shiretoko Five Lakes

徐 兆岩
Xu Zhaoyan

1. はじめに

知床は2005年に世界自然遺産として世界遺産リストに登録された。知床五湖は知床国立公園を代表する利用拠点であり、年間50万人もの利用者が訪れている。利用者の多くは、知床五湖の自然景観の探勝を目的としているが、ヒグマの出没と集中利用による植生の踏み荒らしなどが原因で、2011年5月10日より、知床五湖地区の地上歩道で自然公園法に基づく利用調整地区制度が実施されている。世界遺産に登録された2005年に観光客数は249万人のピークに達したが、その後は減少傾向が続いている。日本人観光客が、団体旅行から家族・個人を中心とした旅行、周遊型旅行から滞在型旅行に転換したためであるといわれる¹。一方で、外国人観光客の数が増えている。台湾、香港、中国、シンガポールなど、いわゆる中華圏からの観光客が外国人観光客全体の9割を占めているが、韓国、タイ、欧米などからの観光客も近年増加しつつある²。小林(2006、2008、2010)^{3,4,5}は知床国立公園の利用に関する多くの研究を行った。しかし、利用調整地区制度が、日本人観光客と外国人観光客にどのように認識されているかは明らかにされていない。

2. 研究目的

知床五湖においては、2011年から利用調整地区制度が導入されている。利用調整地区制度には2つの目標がある。一つは原生的な自然景観と生態系の保全であり、知床五湖の原生的な自然景観と豊かな野生生物によって形成される多様な生態系を、人類共有の資産として将来にわたって保全するため、利用による自然植生やヒグマ等の野生動物への影響を最小限とし、人間と自然との共存を目指すものである。もう一つはより深い自然体験であり、利用者が自らのニーズに応じた利用体験の機会を選択できるようにすることにより、利用者の満足度を向上させることである。具体的には、地上歩道をより質の高い感動的な自然とのふれ

あいや原生的な自然の体験を行える空間とするとともに、高架木道は、安全で安定的な利用が行える空間として活用し、利用者の期待への対応の幅を広げるものである。本研究は知床五湖利用調整地区制度における観光客の認識の実態を明らかにして、①利用調整地区制度の認知度、②利用調整地区制度についての情報の取得方法、③利用調整地区を利用した上での制度に対する利用者の評価を通じて、利用調整地区制度の課題を明らかにし、課題解決に向けた提言をすることを研究目的とした。

3. 研究方法

2015年9月4日(金)から9月6日(日)まで、知床五湖パークサービスセンターにおいて、知床五湖の利用者に対するアンケート調査を実施した。

知床五湖パークサービスセンターにおいて、知床五湖を利用した利用者に対してアンケート調査用紙を配布し回答を求めた、記入後すぐ回収する形でアンケート調査を実施した。回収率100%である。

アンケートの実施時期は植生保護期であるため、知床五湖の地上歩道の利用は、知床五湖フィールドハウスで手続きを行ってレクチャーを受講した後利用可能である。立ち入ることができる人数は1時間あたりに300人まで、1日あたりの利用者数の上限は3000人までとされている。利用の平準化を図るため、概ね10分ごとに50人以内の立ち入りとしている⁶。調査地の知床五湖パークサービスセンターは地上歩道の入口である同時に高架木道の出口のすぐ左側にあり、多くの利用者が立ち寄る箇所であるため、ここを調査地とした。

この時期を選択した理由については、8月と9月に利用者が一番多いが、8月はヒグマ活動期であり、ガイドの同伴が義務づけられているため、料金が大きく、外国人利用者が少ないと予想されたため、9月の植生保護期を選択した。

客観的なデータを収集するには、ランダムサンプリングが必要だが、今回はそのようなことはし

ていない。理由は二つある。一つは団体旅行者が時間の制限があるため、アンケート調査に協力する時間的な余裕がないこと。もう一つは地上歩道に対する利用者の感想を聞こうと考えたためである。アンケート調査にあたっては、日本人、外国人など、できる限り異なるグループの代表者と個人旅行者にアンケート調査を依頼した。例えば、カップルと3人以上の家族など、同じグループの利用者の全員に依頼すると、同じ結果になる可能性があると考えたためである。

4. 結果

アンケート調査票は、知床五湖の利用者の属性（表1）、利用方式と利用体験（表2）、利用調整地区制度に対する評価（表3）と今回のツアーについての感想（表4）から構成された。結果は、表1-4にまとめた。

表1.利用者の属性（人）

項目	カテゴリー	日本人	外国人
年齢	20代	35	6
	30代	15	6
	40代	18	8
	50代	9	3
	60代	7	4
	70代	2	0
性別	男性	47	13
	女性	39	14
地域分布	日本	86	
	台湾		11
	ロシア		6
	中国大陸		4
	香港		3
	シンガポール		2
	インド		1

表2.利用方式と利用体験（人）

項目	カテゴリー	日本人	外国人
知床五湖を来訪した理由は何ですか？ （複数回答）	原生的な風景を楽しむため	57	21
	世界遺産だから	33	22
	野生の動物を見るため	40	3
	野生の植物を見るため	29	3
	ハイキングや登山のため	16	2
	静けさを求めて	8	5
	その他	4	0
何となく	3	0	
高架木道と地上歩道どちらを利用しましたか？	高架木道	24	6
	地上歩道	62	21
（高架木道利用者） 地上歩道を利用しなかった原因は何ですか？	団体旅行なので自由時間がない	13	0
	地上歩道の利用方法を知らない	1	3
	有料、手続きめんどうだから	3	0
	興味を持っていない	0	0
その他	7	3	
（地上歩道利用者） 地上歩道の利用についてどう思いますか？	自然を満喫できた	45	8
	静寂感を味わえた	11	12
	利用者が多く、混雑を感じた	7	0
	その他	0	0
知床五湖を家族や知人にも勧めたい？	とてもそう思う	36	20
	そう思う	43	7
	ややそう思う	7	0
	あまりそう思わない	0	0
そう思わない	0	0	

表 3. 利用調整地区制度に対する認識と評価 (人)

項目	カテゴリー	日本人	外国人
利用調整地区制度を事前に知っていましたか?	知床に来る前から知っていた	20	19
	知床に来てから知った	26	1
	知らなかった	40	7
利用調整制度を知ったきっかけは何ですか?	知床五湖のホームページ	17	19
	旅行会社の案内	10	1
	自然ガイド	10	0
	新聞・雑誌	5	0
	友人・知人	2	0
その他	2	0	
利用調整地区制度についてどう思いますか?	大変望ましい	26	9
	望ましい	16	10
	どちらでもない	3	1
	あまり望ましくない	0	0
	望ましくない	1	0
利用調整地区制度の目的について以下一番当てはまるのは何だと思えますか?	原生的な自然景観と生態系の保全	40	5
	安全で安定的な利用	4	10
	より質の高い自然体験	1	4
	利用体験の機会を選択できる	1	1

表 4. 今回のツアーについての感想 (自由記述)

外国人	満足しました。私は香港人です。香港では知床のような自然環境は珍しいです。 (訳文)
外国人	自然風景は美しいです。静けさを感じられました。でも、ここの交通は不便です。 (訳文)
外国人	very relax
外国人	Fantastic
日本人	ヒグマの緊張感が意外に高く、自然を実感できた。
日本人	ヒグマに会うのではないかという緊張感を感じながらも景色を楽しめました。混雑もなくゆっくり散策できました。
日本人	3度目のツアーですが、とても整備されていて自然を大事にしている様子に感激です。
日本人	思っていたより道が歩きやすく、楽しめた。
日本人	クマ対策を学べて良かった。
日本人	ガイドを付けて再度来てみたい。
日本人	朝、雨が降っていた為、歩きづらかったけど、景色がきれいで良かった。
日本人	雨で残念、もやがかかってあまり見えなかった。
日本人	世界自然遺産を継続していくためには、努力が必要だと実感しました。利用者として貢献できればと思いました。
日本人	途中から雨が降ってしまい、高架木道についたとき、ぐずって景色が見えず残念でした。又、リベンジしたいです。
日本人	自然が体験できて大変満足できました。
日本人	雨にもそれ程降られず、満足のいく散策だった。
日本人	高架木道のみ利用だったので、動物が見られず残念だった。
日本人	きれいでした。
日本人	クマ会わなくて良かったです。自然の美しさを満喫しました。

5. 考察

知床五湖を訪れた動機で、最も多かったのが「原始的な風景を楽しむ」であり、次いで「世界遺産だからである」であった。日本人利用者と外国人利用者を別に見ると、日本人は「原始的な風景を楽しむ」が多かったのに対して、外国人は「世界遺産だから」が多かった。世界遺産に登録されることで、知床は世界的に知名度が高まり、観光客を誘致しやすくなったという点で、観光活動と大いに関係がある。しかし、知床が世界遺産に登録された 2005 年前後の観光客入込数を統計資料で調べて見ると、世界遺産に登録された 2005 年にピークを記録したものの、その後、は年々減少している傾向がうかがえる。世界自然遺産というブランド力は、日本人観光客にとっては弱くなってきているが、今でも外国人利用者に魅力があると思われる。実際に、日本人利用者は減少している一方で、海外からの観光客数は増加傾向にあり、さらに、観光形態が通過型の観光から個人やグループによるオリジナルツアーへと転換しつつある。世界遺産を観光のブランド、とりわけ外国人観光客を呼び込むブランドとしての役割をもっと発揮することは重要な課題である。

観光客の旅行形態の変化は、知床五湖の利用方法の選択に影響を与えると考えられる。団体旅行の利用者は時間の制限があるため、高架木道のみを利用する人が多い。個人旅行の場合には天気状況と利用者の体力が利用方法を選択する時の重要なファクターになると考えられる。大雨の日、高架木道だけを利用しても、霧がかかって自然の景色をはっきり見えないため、満足度に大きな影響を与える。

地上歩道を利用した観光客の 90%以上が「自然を満喫した」または「静寂感を味わえた」と回答している。香港からの利用者は自由回答欄に、「香港では知床のような静かな場所はあまりない。知床では三日間滞在したが、静寂感を十分に味わえた。」と回答している。「静寂を味わえた」と回答した利用者の割合は、日本人よりも外国人利用者の割合が高い。

知床五湖利用調整地区制度をいつ知ったかという質問に対して、日本人の大半が「知らなかった」、「知床に来てから知った」と回答しているのに対して、外国人観光客の半数以上が「旅行前に知った」、「知床五湖のホームページで調べた」と回答

している。外国人旅行者の場合、「知床に来てから知った」という人の割合は少ない。知床に到着してから知床五湖に行くまでの間における外国語による情報提供の仕方にはまだ課題があると思われる。外国人利用者は情報取得の手段が日本人に比べ限定されていると思われるが、知床五湖ウェブサイトは外国人利用者に情報提供の重要な役割を果たしていると言える。現在、日本語と英語と中国語と韓国語がウェブサイト上で提供されているが、2020 年オリンピックを迎え、多くの外国人が日本に来る見込みである。ロシア語などもっと多くの国の言語で提供されることが期待される。

利用調整地区制度について、「大変望ましい」と「望ましい」と回答した制度の支持率は日本人、外国人ともに 90%前後であった。利用調整地区制度の周知度による違いの影響は見られないが、知床五湖現地で制度を知った人は、「大変望ましい」の割合が低くなっている。

利用調整地区制度の目的に関する質問に対する回答で、最も多かったのは「原生的な自然景観と生態系の保全」と「安全で安定的な利用」であった。アンケートの結果からみると、日本人利用者と外国人利用者の間に利用調整地区制度の目標に対する認識の差が存在すると考えられる。日本人観光客が「原生的な自然景観と生態系の保全」を第一に挙げたのに対して、外国人観光客は「安全で安定的な利用」を第一の目的に挙げた。知床五湖の利用調整制度の目標は大きく二つに分けられる。一つは自然環境保全上の目標である、もう一つは公園利用上の目標である。利用者が自らのニーズに応じた利用体験の機会を選択できるようにすることにより、利用者の満足度を向上させることを目標とする。具体的には、地上歩道は、より質の高い感動的な自然とのふれあいや原生的な自然の体験を行える空間とするとともに、高架木道は、安全で安定的な利用が行える空間として活用し、利用者の期待への対応の幅を広げることを目標としている。

6. おわりに

(1) まとめ

本研究は知床五湖利用調整地区制度に対する観光客の認識の実態を明らかにするものである。そのために、①利用調整地区制度の認知度、②利用調整地区制度についての情報の取得方法と③利用調整地区を利用した上での制度に対する利用者の評価を通じて、利用者が知床五湖を利用する際の利用調整地区制度の課題を発見し、または課題解決への提言を研究の目的とした。

まず、知床五湖の利用と利用者の認識に関する文献を抽出し、知床の自然保護と利用の歴史と課題、そして利用調整地区制度の発展の背景を調べた。

次に、知床五湖において、知床五湖を利用した日本人利用者と外国人利用者にアンケート調査を行った。その結果、知床の来訪動機は、「原始的な風景を楽しむ」が一番多いが、外国人利用者にとっては、世界遺産というブランドに魅力を感じている状況が明らかとなった。旅行形態の違いに基づく利用状況は、団体旅行者は高架木道のみを利用するケースが多いのに対して、個人旅行者は天気状況と利用者の体力の状況によって、利用方法を選択していることが明らかとなった。

地上歩道の利用体験については、日本人利用者は「自然を満喫した」と回答する者が多かったのに対し、外国人利用者は、「静寂感を味わった」と回答するものが多くみられた。

「知床五湖利用調整地区制度をいつ知ったか」、またその「情報取得方法」に関する質問に対しては、多くの日本人利用者は「知らなかった」、「知床に来てから知った」と回答した。また日本人の情報取得方法は多様であったのに対して、外国人利用者の半数以上は知床に来る前に利用調整地区制度の情報を知っていた。しかし、外国人利用者の情報取得方法はウェブサイトが中心であることが分かった。また、利用調整地区制度は日本人利用者と外国人利用者に高く評価されたが、利用調整地区制度の目標の認識に関しては、日本人利用者と外国人利用者の間に認識の違いが存在すると考えられる。

(2) 課題と提言

近年の知床五湖の利用者数の変遷を見ると、今後、利用者を増加させるのは困難であると考えら

れる。むしろ利用者数の維持に重点を置くべきだろう。外国人利用者が増え続けるという背景のもと、利用主体の変化に応えるためには、情報発信方法をより工夫する必要があると考えられる。例えば、外国人観光客にとって、世界遺産というブランドは知床を訪れる重要な原因の一つであるため、知床来訪前に、外国人観光客に対して世界遺産というブランドを売り込むホームページでは英語、中国語、韓国語だけでなく、ロシア語なども加え、より多言語で対応する努力が必要だろう。

また、知床に到着しても、利用調整地区制度を知らない人の割合が高いという結果から見ると、すべての観光客に旅を組み立てるために利用調整地区制度に関する必要な情報を、旅行者目線でわかりやすく具体的かつ積極的に発信する必要があると思う。

知床に来てから、知床自然センターと知床世界遺産センターにおいて利用調整制度のパンフレットの配布とポスターの掲載などの形で利用調整地区制度に関する情報を提供するのとは有効な方法だと思う。

しかし、知床観光は、良質な自然資源をベースにした観光地である。近年、エコツーリズムなどを通じて、自然をフィールドとした体験プログラムやアクティビティが広がりを見せている。観光客は多いほどよいというわけではない。自然保護と利用のバランスを保つことができないと、オーバーユース状態になり、自然破壊が取り返しのつかない状態になることから、持続可能な範囲内での適正な利用を進めていくべきだと思う。

注および参考文献

- 1) 北海道外国人観光客来訪促進計画. (平成 25 年度－平成 29 年度)
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/250-gaikyaku/gaikyaku.htm>
- 2) 斜里町観光振興計画(案). 2015
<https://www.town.shari.hokkaido.jp>
- 3) 小林昭裕：知床国立公園の利用適正化に向けた計画策定内容及び手法に関する一考察 ランドスケープ研究 69 (5)、2006
- 4) 小林昭裕：知床国立公園の適正利用を図る上で各々の場の望ましい空間特性に対する利用者の評価ランドスケープ研究 71 (5)、2008
- 5) 小林昭裕：知床国立公園における情報に対する利用者の認知や要望および、これらに関与する要因 ランドスケープ研究 73 (5)、2010
- 6) 知床五湖利用調整地区 利用適正化計画 平成 24 年
<http://shiretoko-whc.com/>